

今後の安全対策の進め方(案)

安全啓発・運航者との連携

基本となるプラットフォームの整備

- メール等の操縦士との情報共有手段の確保
- 情報発信の開始
- (例)・簡易型FDR等の安全に寄与する新技術の紹介
 - ・エラーやエラーに繋がる要因(Threat)を分析し対策を検討する予防的なリスク管理であるThreat and Error Management(TEM)の紹介
 - ・自発報告の可能なVOICESの紹介と活用の促進

昨年より実施しているルール、指導監督、運航環境の改善策

- ・講習会や審査を通じた安全啓発
- ・事業許可の指導強化、啓発、情報発信
- ・情報提供サービスの活用促進 等

必要な調査

ルール、指導監督、運航環境の更なる改善

自発報告等

- アンケート(ヒヤリハット、ニーズ調査)
- 事故等の要因の詳細分析
- 海外事例の詳細調査 等

調査結果

調査結果

プラットフォームの充実

- ポータルサイト開設、SNSの活用
- 情報発信の強化
- (例)・ビデオ教材、日本版TEM訓練教材 等の開発

方向性の検討と取組みの強化

- 課題の抽出と、対応の方向性の整理
- 指導監督体制等の見直し
- (例)・審査・試験のあり方、立入検査体制 等

運航者情報等

- 運航者情報等の分析等、開始した取組の状況を踏まえた調査 等

調査結果

対応に必要な調査事項

調査結果

速やかに開始する取組

来年度以降早期

プラットフォームの高度化

- (例)・ヒヤリハットや飛行データ等様々な運航者情報を管理、解析、リスク軽減策を検討するデータベースの構築

ルール見直しの実施

- (例)・新技術導入の義務化、その他制度の見直し 等